

スコットランドの独立に関する住民投票について

スコットランド独立は住民投票で否決

2014年9月18日(現地時間)、スコットランドが英国から独立することの是非を問う住民投票が実施され、即日開票の結果、否決されました。

住民投票は英政府とスコットランド自治政府が2012年に署名した合意書に基づくものです。直近の世論調査では賛成派と反対派が拮抗しており、結果が注目されていました。

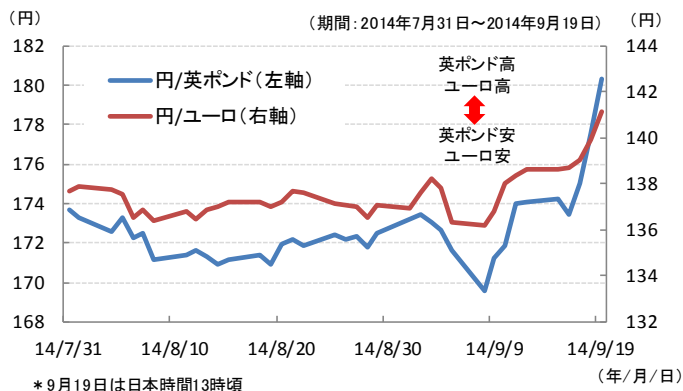
スコットランドは英国全体の人口の8%強、国土の3割強を占め、域内には北海油田や原子力潜水艦の拠点などがあります。独立が決定した場合、英国における景気悪化や政治的混乱が起こる可能性が指摘されており、他地域への悪影響も懸念されました。経済が混乱するリスクに備え資金逃避の動きが見られたこともあり、市場は警戒感を強めていました。

外国為替市場では英ポンド高が進む

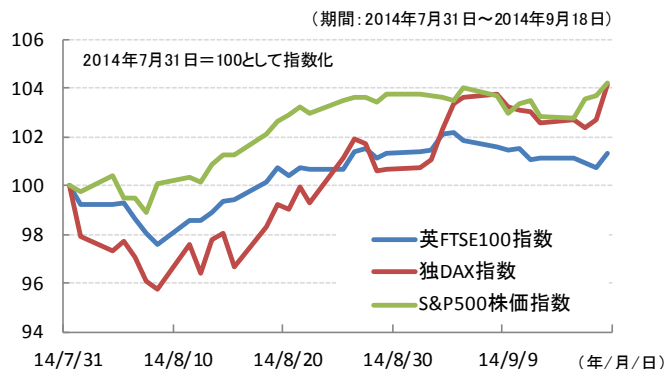
日本時間の9月19日10時頃には、一部地域において独立反対派が優勢とする結果が出たことが報じられ、英ポンドは対円、対米ドルで大きく上昇しました。日本時間13時現在、英ポンドは対円で前日比1.6%程度、対米ドルで同1.1%程度の上昇となっています。

以上

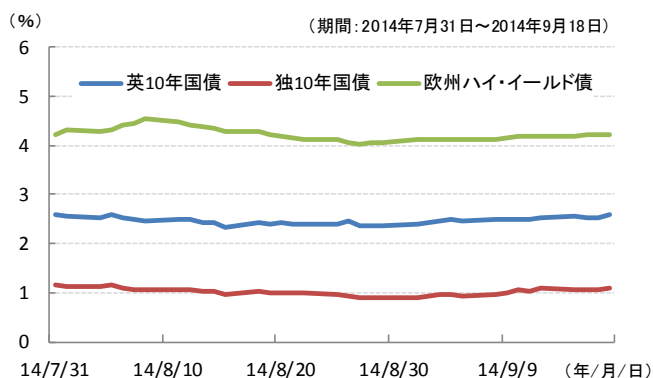
【図1】為替市場の推移



【図2】株式市場の推移



【図3】金利の推移



欧州ハイ・イールド債: BofA・メリルリンチ・ヨーロッパ・カレンシー・ハイ・イールド・コンストレインド・インデックス

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成